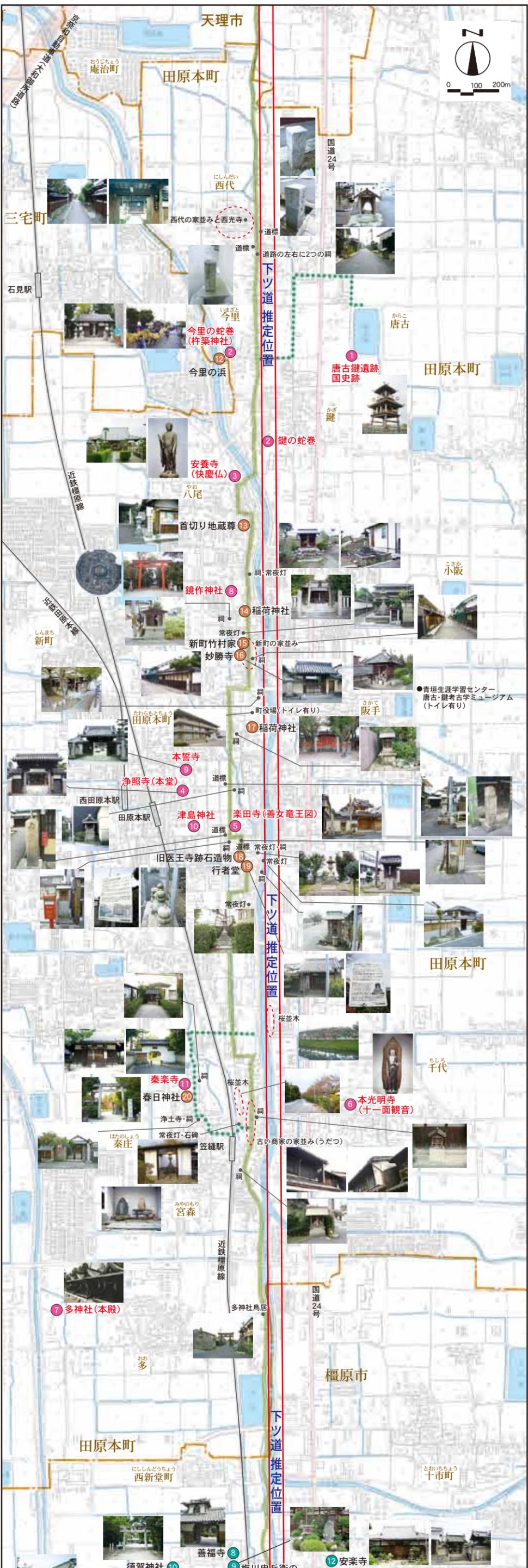


田原本町

No.	名称	解説
1	唐古鍵遺跡 (国史跡)	今からおよそ2,000年前に栄えた、弥生時代の代表的な集落。遺跡面積の約42ヘクタールは近畿地方最大。直径約400mの範囲が居住区で、その周りには幾重にも「環濠」が巡っていた。遺跡は弥生時代前期(約2,300年前)に成立し、古墳時代前期(1,700年前)までの約600年間続いた。平成3年(1991)には楼閣を描いた土器片が出土し注目を集め、唐古池の一角に楼閣が復元されている。平成11年(1999)に国史跡に指定された。
2	鍵の蛇巻・今里の蛇巻 (杵築神社)	農作物の豊作を祈るとともに、男の子の成人を祝う節句行事。毎年6月の第一日曜日(旧暦のときは5月5日の男の節句の日)に蛇の形をした長さ18mの蛇巻を、新わらで作り、13歳から15歳の男の子が蛇巻の頭を担ぎ、年下の男の子と、当屋の男たちが胸を持って、村中の家々を大声で「あめでとう」と言って、祝福して回る。
3	安養寺 (快慶仏・国指定重要文化財)	安養寺は、寛永10年(1633)、源運社宝誉上人の開山と伝えられる。当寺に伝来した木造阿彌陀如来立像は鎌倉時代の仏師快慶の作で、玉眼・粉留塗は快慶が好んで用いた手法である。足柄に「安阿彌陀如来仏」(快慶の称号)の墨署名がある。
4	浄照寺 (本堂: 県指定文化財)	江戸時代前期、平野長勝の創建と伝えられる。木造阿彌陀如来立像(江戸時代前期)を本尊とする。浄照寺の本堂は、慶安4年に建立された、入母屋造本瓦葺の建物である。本堂には、組物・欄間・墓股などに優れた彫刻技法が残り、県下における大規模な真宗寺院本堂の典型として価値が高い。
5	楽田寺 (善女竜王図: 県指定文化財)	楽田寺は、天平年間の創建と伝えられるが、定かではない。元は真言宗であったが江戸時代に融通念仏宗に改宗している。絹本着色善女竜王図は室町時代の作。竜王が雷神・雨神を伴い、上方には十一面観音像、下方には弘法大師坐像を配する。山号の雨宝山竜王院が示すように、善女竜王図は雨乞い祈願に用いられた。
6	本光明寺 (十一面観音: 国指定重要文化財)	本光明寺は、天理市森本町にあった本光明寺を、明治7年に廃仏毀釈で廃寺となった勝楽寺跡地に迎入れたもの。木造十一面観音立像は平安時代中期、11世紀後半の作。柱の一木彫成像で、像高174.5cm。板光背・台座とも当初のものがよく残っている。彩色等は後補である。
7	多神社 (本殿: 県指定文化財)	多坐弥志理都比古神社 本殿4棟、江戸時代、18世紀前半の建物。多神社本殿は、東西に間1社が並ぶ四殿配置の形式をとる。本殿は、昭和52年に檜皮葺から銅板葺に改められた以外は当初形式をよく残す。また、春日造社殿としては類例の少ない手法もみられ、近世中頃の本殿建築としては注目される。
8	鏡作神社	鏡作坐天照御魂神社。祭神は天照国照彦火明命、石凝姥命、天糠戸命で、古来から鏡鑄造の神として信仰された。神社の本殿は、江戸時代中期頃の建築と考えられている。御神宝として三神二獣鏡が伝えられるが、原型は三角縁神鏡である。
9	本誓寺	浄土宗。開基は、鎌倉時代の伝承もあるが不明。本尊は、阿彌陀如来立像で鎌倉時代後期の作。他に、元は楽田寺にあったとされる平安時代中期の十一面観音立像が安置されている。領主平野氏の菩提寺。



No.	名称	解説
10	津島神社	祭神は素戔鳴命、櫛名田姫命、誉田別命、天児屋根命などとなっているが、本来は牛頭天王を祭神とする田原本町の産土神だったと考えられる。神仏分離以前は祇園社といった。現在も毎年7月には盛大に祇園祭が催され、地元では「祇園さん」の愛称で親しまれている。
11	楽楽寺	真言律宗。本尊の千手観音像は百濟王から大化3年(647)聖徳太子に賜ったものとされるが、現在の本尊は平安時代の作である。本堂は形状が護摩堂そのものであり、転用されたものと考えられる。また、本堂前面にある「阿字池」は、弘法大師の築造と伝えられる。ハス池となっており、7~8月にかけて美しいハスの花が、極楽の如く咲き乱れていた。
12	今里の浜	鉄道交通が発達する明治25年頃まで、大和川船運の船着場であった。物資の荷揚げ場として、船問屋が建ち並び、問屋町田原本の外港として大いに栄えた。
13	首切り地藏尊	首切り地藏菩薩像が祀られている。頭部が胴体から離れて足元に置かれているので、このように呼ばれている。身代わり地藏だが詳しい由来はわからない。隣の阿彌陀如来仏座は南北朝時代の鳥仏師の子孫による作とある。
14	稲荷神社	祭神: 保食神。現在の社殿は安政4年(1857)の改築で、昭和16年と57年に改修を施している。境内社に皇大神社(祭神: 天照皇大神)を祀る。
15	新町竹村家	江戸時代の建築。本瓦葺切妻根平屋建、七間取と下店の主屋と、L字形の妻入棧瓦葺切妻根根付平屋建三間取離座敷で主屋及び離座敷の創建は当家の伝承では18世紀初とされ、主屋玄関上部には金峰山の正徳2年(1712)祈禱札もあり、当家の由緒を示すものである。
16	妙勝寺	日蓮宗。元和4年(1618)建立。光秀院日脱上人の開山。明治中期以前は京都石塔寺の末寺。
17	稲荷神社	慶安元年(1648)に田原本領主が京伏見から勧請し、陣屋の鬼門の守りとした。
18	旧医王寺跡石造物	旧医王寺は、明治7年(1874)廃寺の後、明治33年(1900)田原本高等学校の敷地となり、その後、田原本高等女学校に、更に昭和22年(1947)田原本中学校、そして現在は田原本町第一体育館の敷地となっている。
19	行者堂	江戸時代中頃から行者堂の前身の地藏堂があり、寺院本末御改帳に「本誓寺末寺」とある。行者堂には役行者像を祀る。前面の中街道は大峰山参りの道で、道中の安全祈願をした。お堂は地元の自治会が維持管理し、毎年4月に護摩法要が盛大に営まれる。
20	春日神社	祭神は天児屋根命など春日四神。境内社に笠縫神社があり、祭神は比売大御神。もと笠縫皮色跡に祀られていたと言われている。



【田原本町 竹村本家】

檀原市

1	森村家住宅 (国指定文化財建造物)	奈良盆地でも最大規模の民家の一つで、濠をめぐらし、豪族の邸宅の構えを残している。当家は18世紀初期頃の建築で、全般的に改造が少なく、主屋・座敷とも上質のもので、奈良県においても有数の古い民家である。
2	森村家庭園 (県指定文化財名勝)	
3	国分寺 木造 十一面観音立像 (国指定文化財彫刻)	本堂背後の収蔵庫に、平安時代中期の作品、国の重要文化財に指定されている十一面観音立像がある(非公開)。櫛の一本造りで、膝下には当時の特徴的な技法である翻波式衣文が刻まれている。
4	本薬師寺跡 (国指定文化財特別史跡)	現在、西の京にある薬師寺の前身にあたる寺。いま、寺には小堂が建っているばかりだが、前庭にあたる跡地には金堂の礎石や東西両塔の上壇、塔の心礎などが残されている。
5	大窪寺跡観音堂 木造聖徳太子立像 (県指定文化財彫刻)	上半身が裸形で、頭部内に正安4年(1302年)銘の墨書がある。体軀は肉付きが良く、幼児の柔らかい肌の感じがよく表現されている。太子像のなかで最古のものは、アメリカのボストン博物館に所蔵されている正応五年(1292年)銘のものがあるが、国内では本像が最古のものとなる。
6	丸山古墳 (国指定文化財)	丸山古墳は県下最大の前方後円墳で、6世紀後半に築かれた古墳と考えられている。全長約220m、後円部径150m、前方部径約100m。後円部には石室がある。



30	おふさ観音	天明年間に妙円尼が開いたと伝えられている。寺のある地名と合わせて「おふさ小房観音」と呼ばれ、信仰を集めている。境内には鯉の池や亀の池がある。
31	八幡神社	祭神: 誉多別命、天児屋根命。創建年代不明。四条町新町の東端、飛鳥川が西流から北流にうつる曲流地点に西面して鎮座する。周辺は高く堅固な石垣上に築かれたコンクリート塀に囲まれている。
32	生国魂神社	祭神: 生国魂神、倭国魂神。創建年代不明。当初は畝傍山の北麓に近い中腹にあったが、大正9年10月20日現在地へ遷座した。
33	西向寺	浄土真宗本願寺派。門・本堂・庫裡などがある。門と庫裡は昭和58年に新築、本堂は江戸末期に建立。
34	正恩寺	浄土宗。堂庫裡で元禄3年頃の建築と伝える。
35	実相寺	東光山実相寺、浄土真宗本願寺派。門・本堂・庫裡がある。本堂は、昭和43年改築し、鉄筋の堂となった。門や庫裡も改修された。
36	国源寺	神吉山一乗院国源寺、浄土宗。本堂庫裡・観音堂・地藏堂がある。もとは畝傍山麓の神武天皇御陵兆域の一部にあつた。